

三重県支部

中小企業診断士のための経営改善事例集

平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災により、あらためて日本の経営の「強さ」と「弱さ」を再認識させられた。厳しい状況のなかで日本中から数々の支援が寄せられ、現場を中心に復興に向けた力強い動きが着実に始まっている。被災地では、日本人のモラルの高さや、地域の連帯意識の強さなど世界に誇れる日本文化の良さを示した。これらにより、日本文化を礎石とした日本の経営の強さは、現場で積み上げられた小さな「カイゼン」活動にあることを再認識させられた。

また、日本経済は内需の低迷で、国際化や多文化共生社会への対応が迫られている状況にある。日本の経営の国際化の必要性は、議論を待たない状況であり、ときには強烈なトップダウン型の活動も求められる。しかし、やはり現場サイドでのボトムアップ的な活動が日本人の特性には適合し、日本人の特質をより発揮できる「資質」であると思われる。日々の現場での「カイゼン」活動を積み上げていく経営姿勢と、長期的な視点に立つ「人を中心とした日本の経営の原点に再度戻り、そのあり方の検討を進めていく必要性は高いのではないだろうか。

今回作成した『中小企業診断士のための経営改善事例集』の編集の方法としては、プロコン・企業内診断士を問わず、自らが体験した経営改善事例をできるだけ制約事項を設けず収集し、改善に対する思い・志を含め表現するようにした。また、業種別に改善課題が一覧できるタイトル索引を設け、利用者の便宜が図れるようになっている。第 1 章「カイゼンと中小企業診断士」では、経営改善に取り組む姿勢とそれを支援する中小企業診断士の取り組み方について記載し、第 2 章「経営改善事例集」では、最初に業種別・課題テーマ別の索引を示し、その後、順次「製造業」「建設業」「小売業」「卸売業」「サービス業」「飲食業」「運輸業」「公共部門」と業種別に経営改善事例を合計 21 事例紹介している。

また、経営改善事例の記載事項の項目は、次のとおりとした。タイトル／対象企業属性、①概要、②現状と課題、③体制と進め方・手法など、④取り組み内容、⑤成果および工夫点、⑥今後の課題。

この『中小企業診断士のための経営改善事例集』は、三重県支部所属の中小企業診断士が自ら体験した経営改善の事例を集めることで、「カイゼン」を積み上げる日本の経営の強さを再認識することを目的としている。また、可能な限り多くの会員が執筆活動に参加し、小さなカイゼンを多くの人が集い参加し、実施を担っていくことが、やがて大きなイノベーションへ繋がっていくことを感じてもらいたい。そのため、現場に隠れて表には現れない小さい小さな「カイゼン」の物語をそのまま味わってもらうことで、中小企業の現場でカイゼン活動を担う中小企業診断士の活動の支えとなることを期待している。